

令和3年度 事業報告

1. 内外の女子体育に関する研究及び研究大会の開催

1) 関連研究プロジェクト

(八木会長)

研究タイトル：『With コロナでのダンス指導』

申請者：(公社)日本女子体育連盟理事会

研究背景：感染症拡大の社会状況によるダンス指導の際の課題を整理し、ニューノーマルなダンス活動を提言していく必要がある。コロナ禍だからこそ気づけたダンスの素晴らしさ、オンラインや対面でのダンス指導の工夫や事例を収集した1年目の研究成果を元に、条件・場面に応じて参考にできるように、また広くアクセスできるような形式で発表することを目的とした。

研究成果：with コロナで活動する現在の、オンラインでのダンス指導や交流の具体的な展開を、第54回全国女子体育研究大会で提案した(2021年10月)。

2) 加盟団体との共同研究

(八木会長、寺山常務理事、小松理事)

【継続】 鹿児島県学校体育女子体育研究会(共同研究者：寺山由美)

研究テーマ：「表現・ダンス授業の『主体的、対話的で深い学び』～ダンスの『知識』を問う～」

概要：2022年度全国大会に向けて、幼稚園・保育園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・大学・生涯スポーツの実践研究が進められた。新型コロナウイルス感染拡大により、県境を越えての往来ができなかったため、共同研究者とはオンラインにて研究討議を行った(10/24、2/12)。

2. 女子体育に関する講習会及び育成事業

1) サマーセミナー

第54回全国女子体育研究大会(東京)/

JAPEW SUMMER SEMINAR 2021-令和3年度夏期講座- Web開催

□生涯スポーツ/授業・保育専門委員会

(高野牧子副会長、佐藤常務理事、多田理事、高野美和子理事、本田理事)

【公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ普及奨励助成事業】

期 日 2021年10月2日(土)・3日(日)

後 援 スポーツ庁 東京都 (公財)日本スポーツ協会 (公財)スポーツ安全協会
(公財)ミズノスポーツ振興財団 (公財)日本学校体育研究連合会

会 場 ※今年度は、Web開催のため、コース毎に以下の会場よりライブ配信を行った。
生涯スポーツコース 帝京大学八王子キャンパス トレーニングセンタースタジオ
学校体育コース 平成国際大学(1日目)、日本女子体育大学(2日目)

内 容 講演、講義、実技、等

参加者 全国の幼稚園・保育園、小学校・中学校・高等学校、特別支援学校、大学、生涯スポーツなどの指導関係者、大学生等

参加費 生涯スポーツコース：会員6,600円、『女子体育』年間購読者6,600円、一般8,800円、学生3,300円
(資料代(DVD・テキスト)別途2,000円(税込)をプラスした金額が受講料となる)

学校体育コース：会員6,600円、『女子体育』年間購読者6,600円、一般8,800円、学生3,300円

※会員(正会員・特別会員・JAPEWダンスムーブメント指導員)

<概 要>

昨年から続く社会状況から生まれた多方面での制約を前に、オリンピックをはじめとして、学校体育の現場でも生涯スポーツの現場でも、活動を通じて実現したいことの核心を問い直すこととなった。

今回のメインテーマは「今、ダンスにできること」としサブテーマとして生涯スポーツは「ポジティブマインド～共に踏み出そう～」、学校体育は「新学習指導要領を踏まえたダンス学習と評価～今とこれからに通じる学び～」を掲げて、コロナ禍にも負けることなく活動されている全国の指導者の方々に、エールを送り生きる力の一助として頂くために、様々な試みをした。開催に向けてプロモーションビデオを作成配信することで、10月開催へのアプローチとした。特に、Web開催の特徴を活かした受講者参加型のZoomによるライブ配信は昨年に続き参加者から大変好評であった。なお、生涯スポーツコースは参加者の年齢を考慮し、テキスト・DVD(全国大会の記念講演・ダンス交流会は含まれない)で受講する形式も継続とした。学校体育コースは例年同時に開講される教員免許状更新講習は昨年に続き今年度も実施を見送った。

参加者の内訳は、生涯スポーツコースは106名(会員75名、一般19名、学生3名、養成9名)本部役員の参加を含め2日間の延べ参加者数は149名であった。学校体育コースは、47名(会員29名、一般16名、学生2名)本部役員の参加を含め2日間の延べ参加者数は、101名であった。

全国大会の「共通講習」では、講演を宮嶋泰子氏による「今、ダンスにできること」、座談会を宮嶋泰子氏・関伸夫氏・八木ありさ会長による「スポーツ・ダンスの未来～ポスト・オリンピック、ポスト・コロナに向けて～」、ダンス交流会を『女子体育』編集部チームによる「踊ろう、繋がろう、みんなでダンス」をZoomにより合同配信された。

学校体育コースでは、講義として「新学習指導要領の下でのダンス学習と学習評価」をテーマに、関伸夫氏による新学習指導要領を踏まえたダンスで育成を目指す資質・能力及び学習評価についての講義が行われた。演習では、「動きを見る眼を磨く～見逃してはいけないところ～」をテーマとし、村田芳子氏、幅田彩加氏から、それぞれの立場でテーマについての解説や実践報告がなされ、参加者同士のグループワークも含め、ダンスの「いい動き」とは何かについてディスカッションが行われた。実習①では、「ダンスの魅力」をテーマとし、踊り手であり振付者、教育者、研究者でもある北村明子氏から、ダンスの魅力を様々な切り口から実演実習も含めて解説いただいた。実習②では、「新学習指導要領を踏まえた小中高の楽しいダンス学習～問いかけから引き出す～」をテーマとし、宮本乙女氏による小学校、中学校、高校までの発達段階を追いながら、児童や生徒に問いかけて引き出す学習の指導法実習がデモンストレーションやグループワークを交えて行われた。

生涯スポーツコースでは、廻起侖沙包氏による講義「元気を取り込む呼吸法」をテーマに呼吸と心の相関、脳と呼吸筋の連携など呼吸法の仕組みを解説し実践を交えて行なった。また、田中安理氏による実技①「ダンスムーブメント～音色から動く～」をテーマに、また、佐藤廣子氏による実技②「ダンスムーブメント～言の葉から動く～」をテーマに掲げ、実技③では染野陽介氏による「一畳分のスペースで楽しむダンス」などジャンルや曲調の異なる作品をライブ配信で指導を行い、時折、参加者に向け質問や感想などの言葉を交わし、双方向でコミュニケーションを取りながらの講習となった。当日終了と同時にオンライン開催に関するアンケートを実施し、またDVD送付の際にもアンケートを同封し、次年度の開催へのヒントを得ることが出来た。

■ 10/2・3 プログラム

10 月 2 日 (土)	9:30~10:00	10:00~10:30	10:30~12:00		13:00~14:10	14:40~15:50	
	生涯スポーツ コース	受付 開会式 会長挨拶	全国大会 記念講演 「今、ダンスにできること」 宮嶋泰子	昼 食	講義 「元気を取り込む呼吸法」 桐起倫沙包	実技① 「ダンスムーブメント～音色から動く～」 田中安理	
	9:30~10:00				13:00~14:00	14:10~15:40	
	学校体育 コース	JAPEW賞表彰 加盟団体報告	座談会 「スポーツ・ダンスの未来 ～ポスト・オリンピック、ポスト・コロナに向けて～」 宮嶋泰子・関 伸夫・八木ありさ		講義 「新学習指導要領の下でのダンス学習と学習評価」 関 伸夫	演習 「動きを見る眼を磨く～見逃してはいけないところ～」 村田芳子・幅田彩加	
10:00~10:30	10:30~11:40	13:00~14:10	14:50~15:35		15:40~16:00		
10 月 3 日 (日)	生涯スポーツ コース	受付 実技② 「ダンスムーブメント～言の葉から動く～」 佐藤廣子	昼 食	実技③ 「一畳分のスペースで楽しむダンス」 染野陽介	全国大会		
	9:00~9:30			9:30~11:00	13:00~14:30	「踊ろう、繋がろう、みんなでダンス」 DMS岡山2021	閉会式 次年度全国大会鹿児島
	学校体育 コース	実習① 「表現・ダンスの魅力」 北村明子		実習② 「新学習指導要領を踏まえた小中高の楽しいダンス学習 ～問いかけから引き出す～」 宮本乙女	『女子体育』編集部チーム	副会長挨拶	

2) 未来世代の研究発表会

第65回未来世代の研究論文発表部門&卒業ダンス発表部門

□研究交流専門委員会(高野牧子副会長、長谷川理事、高田理事)

期 日 2022年2月11日(祝・金)9:00～24日(木)18:00

方 法 Web開催(オンデマンド)

※パワーポイントにナレーションを入れた動画(卒論7分、修論10分、博論15分以内)

内 容 令和3年度卒業及び修了の学生による卒業論文・修士論文・博士論文のWeb発表

参加者 大学生、教育関係者、会員、一般、合計94名(エントリー者のみの合計数)

参加費 無料

<概 要>

この研究発表会は、3月に大学を卒業、修了する未来世代の若者による研究発表会である。例年は卒業生によるダンス発表会も行っているが、昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、ダンス発表は行わず、オンデマンドによる研究発表のみであった。発表参加大学は11大学、演題数は38題(卒論22題、修論15題、博論1題)であり、演題数は昨年とほぼ同等であった(昨年度39題)。Web開催ということで遠方からの発表者、閲覧者があった。

発表申し込み、要旨・発表動画提出、閲覧申し込み、コメント回収、アンケート回収などは全てGoogleフォームを用いたことや、今年度新たにGoogleサイトを用いて特設ページ2種類(申し込み用、限定公開用)を開設したことにより、非常にスムーズに運営することができた。

発表に対するコメントを指導教員に依頼するとともに、発表者に義務付けたことにより、全コメント数は195件と増加した。また、回収したコメントは全発表者に指導教員経由で送信し、コメントに対する回答を収集し、コメントした方々に返送を行った。タイムラグはあったが、対面での研究発表における質疑応答に近い形を作ることができ、昨年度の反省点でもあった「交流の場」を今年度は設けることができたのではないかと見える。

Web開催を2年間行い、オンデマンドならではの良さ、日時の制限がなく、繰り返し視聴可能であること、遠方からの参加可能であること、多くの研究を見ることができるといったことなどについて確認することができた。

3) JAPEW ダンスムーブメントセミナー

第15回 JAPEW ダンスムーブメントセミナー2021

□指導員制度専門委員会(佐藤常務理事、多田理事)

主催 (公社)日本女子体育連盟 岡山県女子体育連盟(ODLN)
共催 岡山県 岡山県民文化祭実行委員会 (公社)岡山県文化連盟
期日 2022年2月19日(土)・20(日)
会場 オンライン開催 (就実大学 就実短期大学)
後援 スポーツ庁(公財)日本学校体育研究連合会 岡山県教育委員会 岡山市 岡山市教育委員会
講師 八木ありさ 佐藤廣子 岡本悦子・安江美保 原田祐子(JAPEWダンスムーブメントA級指導員)
竹中幸子 飯田路佳
参加者 オンライン参加者102名、他に歓迎演技発表(DVD作成協力者)45名

<概要>

今回15回目を迎えた本セミナーは、2020年度はコロナ禍で延期となり2年越しの開催となった。(公社)日本女子体育連盟と岡山県女子体育連盟の共催により、ダンスムーブメントの普及を図ると共に、生涯スポーツ、学校体育の振興に寄与する人材育成を目指して行い、全国から102名がオンラインに参加、(公社)日本女子体育連盟からは、顧問・参加をはじめ常務理事や理事など多くの方々が参加した。

また、ハイブリッドでの開催予定が、コロナ禍の影響を受け、現地での講習会が行えず、すべてオンライン配信とせざるを得なかった。また会場に入れるスタッフの人数が制限されたことでかなり運営に関しては苦労があった。しかしオンライン配信については専門の業者を入れて対応したため二日間とも特に大きなトラブルもなくスムーズに行えた。東京本部・岡山・埼玉の講師陣と北海道から沖縄までの参加者と画面を共有しながら学校体育・生涯スポーツのつながりをより強く感じる有意義なセミナーとなった。二日間のセミナーは画面を通してではあったが、新たなコミュニケーション術・指導術を駆使されての展開となり、今後の開催に向け大きなヒントとなった。詳細については、『女子体育』2022夏号で報告予定。

4)「JAPEW ダンスムーブメント指導員」養成事業 (略称 JAPEW-DMIL)

□指導員制度専門委員会(佐藤常務理事、多田理事、田中安理理事)

①「JAPEW ダンスムーブメント指導員」養成講習会

<A級-第16回、B級-第21回、C級-第24回>

※養成講習会は2年間かけて(2021, 2022年)開催。2021年度は課題曲のみを実施。

課題曲担当者が受講者とDVD、Zoom、LINE動画を使用してすすめた。

主管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会
講師 (課題ダンス)A級:高橋真琴、B級:飯田路佳、C級:佐藤廣子
受講者 A級4名、B級1名、C級4名 計9名
受講料 会員・一般・学生 16,500円(SS受講料含む)

②「JAPEW ダンスムーブメント指導員」検定講習会

※以下の内容で開催予定であったが、対面での講習を厳守しているため中止となった。

期日 2021年11月27日(土)・28日(日)・29日(月)
会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
主管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会

③「JAPEW ダンスムーブメント指導員」クリニック

※コロナ禍のなか対面での開催が不可能であった為、DVD視聴&アンケートの提出に代替えし実施した。

主管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会
内容 実技研修(DVD視聴&アンケート)
講師 高橋真琴、高野牧子、飯田路佳、寺山由美
受講者 S・A・B・C級 有資格者 77名

受講料 会員 5,500円

<概要>

今年度の養成講習会は新たな試みを実施(各級ごとに課題ダンスのみをDVD、Zoom、LINE動画を使用して双方向でやり取りしながらすすめた)。検定講習会は対面厳守のため断念することとなった。クリニック講習会は昨年度と同様にDVD視聴&アンケート提出を実施。アンケートでは、「遠方に出かけなくても、講師を間近に見ながら、何度も復習できる」など、対面を望むもののDVDでの開催も好評であった。クリニック・養成講習会の詳細については、2022『女子体育』冬号で報告した。

3. 機関誌その他の学術刊行物の発行

1) 『女子体育』編集発行

□『女子体育』編集専門委員会(宮本常務理事、田巻理事)

- ① 刊行 通常号は季刊(年間4回)とした。他に、AJDF神戸特集号を発刊、合計5回とした。
春号：4月8日発刊 夏号：7月8日発刊 秋号：10月8日発刊 冬号：1月8日発刊
AJDF神戸特集号：11月8日発刊
- ② 体裁 B5判。通常号、特集号共に64頁、横書き。AJDF特集号は80頁
- ③ 購読料 年間購読料5,800円、新卒4,000円、学生3,800円、JAPEWダンスムーブメント指導員4,000円
通常号、特集号共に、1冊売りは1,320円(税込)
- ④ 刊行方針 ダンス指導について先進的に世に提案していく。これまで同様、しっかりと理論に裏打ちされた実践的な内容を掲載し、現場の保育者、教師、生涯スポーツの指導者、体育やダンスを学修する学生の、実践や研究に資する雑誌を目指す。
- ⑤ 年間テーマ 「今、ダンスにできること」
2020年度は、コロナ禍に翻弄された1年であった。折しも2018年の幼稚園、2020年の小学校を皮切りに、2021年は中学校、2022年は高等学校の学習指導要領が施行されていく流れの中で、生涯を通じて、体育・スポーツの主人公になるための教育に「主体的・対話的で深い学び」に関して多くの知見や指導事例が提案され始めたところであり、JAPEWでは、特にダンスに関して多くの提案を行ってきたところである。しかし、仲間とのかかわりからたくさんの創造的な活動が行われることを大きな特徴としてアピールしてきたダンスであっても、対話的な学びのスタイルを変更せざるを得ない状況が生まれたり、また、JAPEWで提案してきたダンスのセミナーやダンスコンクールなどのイベントについて思うように展開することができなかつたりした。この苦しい一年を通じて、それでも各地の実践や、行事のオンライン開催や、実践を収集する活動の中で、今、ダンスだからこそできることも見えてきた。2021年度は本誌を通じて「今、ダンスにできること」を探究する1年とした。
- ⑥ 各号テーマ
 - 春号 価値の転換
 - 夏号 自己表現・自己実現
 - 秋号 かかわりを生み出す
 - 冬号 健やかな人生を支える
 - 特集号 第33回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)特集
- ⑦ その他 巻号の記載について
巻はこれまで同様に暦年で変えていくこととし、2021年は、63巻である。
春号→4月8日発行：第63巻4号 夏号→7月8日発行：第63巻7号
秋号→10月8日発行：第63巻10号 冬号→1月8日発行：第64巻1号
特集号→11月8日発行：63巻11号

<概要>

機関誌『女子体育』としてのあり方、JAPEW事業全体における会計的な問題、他誌との差別化を図り購読者を増やすこと、について検討し、以下のようにリニューアルを図った。

- ・他誌との差別化：ダンス指導について豊かに提案できるように試みた
- ・サイズ：A5判→B5判に(文字量は増え、ページ数が減る 80ページ→64ページ)

- ・年間発刊数：通常号4号(春夏秋冬)+AJDF号80ページとした
- ・特別会員：全員に送付するように変更した
- ・1冊売り単価1,320円(税込)とした

他誌との違いを出すこと、『女子体育』という名称により、女子や女子教員を対象とした提案であるという誤解を招くため、表紙デザインの中に、「Dance Education for All」のロゴを配置して、ダンス教育に関する雑誌であることを強調することにした。表紙には、掲載記事のタイトルの一部を掲載して、より、内容のアピールを行えるようにした。表紙には新しくデザイナーを起用して、印象を大きく変えることができた。これらの変更については、理事会はじめ、好評であった。

ダンス指導について先進的に世に提案するという姿勢を表明するが、単にダンスにのみ特化して行くのではなく、体育・スポーツの中にあるダンスを主張していくために、体育・スポーツに関する連載「やさしく読み解く体育・スポーツの今」を新たに設けた。各号では、先進的な執筆者を得ることができ、好評であった。

生涯スポーツのダンス指導者の読者が多いことを鑑みて、JAPEWダンスムーブメント指導員向けの、より実践的な連載「課題曲レッスン」を新設した。とくに「課題曲レッスン」では、誌面だけでなく、動画QRの掲載にも取り組んだ。

年間発刊数を6号から5号に減らすことで、経費を節減する。その分、通常号の充実に注力することができた。また、ページあたりの執筆料を据え置いたために、実質的な執筆料削減となった。

特別会員で会員費を払っている仲間に、さらに連盟への帰属意識を高めていただくために全員配布とした。現在掲載しているよい実践や、本連盟の主催イベントについて関心を持っていただき、各県の取り組みをもっと積極的に掲載していくことで、本誌の機関誌としての意義を高めていくこととした。毎号2件ずつ掲載することになった「各県便り」は、コロナ禍でも工夫をして取り組む各県の様子が披露され、好評であった。

実際に刊行にかかる費用から、単価の値段を見直し、909円+税→1,200円+税とした。年間購読料は、一般5,800円、学生3,800円、新卒4,000円については基本的に変更しないが、例外として、JAPEWダンスムーブメント指導員5,000円については、次の理由により4,000円に値下げをした。JAREWダンスムーブメント指導員は、JAPEW-DMILの資格更新料の他に『女子体育』が必修購読となっており購読料を全員支払っている。今回から、特別会員(特別会員費年間6,000円)全員に『女子体育』を無料で発送することになる新方針との比較検討から、少し値下げすることが妥当であると考えた。

経費に関するその他の工夫として、会員からの有料広告掲載ページ(1件5,000円で、毎号3件の収入を見込む)を導入した。外部に委託していた表2を、内部で作成した。

以上の工夫により、赤字は削減できたが、表紙デザイナーを起用したこと及び、会員数が減少しているため、思ったような増収につながらなかった。会員の獲得は今後の課題である。またAJDF特集号が、今年度別冊として扱われたため、各書店売りで思うように伸びなかったという反省も得た。次年度への課題としたい。

2) 『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』 発行

□『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』編集委員会(原田理事、福本委員)

- ・『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』第38巻を刊行した。

4. 関係諸団体との連携及び国際的な研究交流の推進

1) 全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)

第33回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 33rd All Japan Dance Festival-Kobe

□AJDF-KOBE専門委員会(寺山常務理事・熊谷理事・渡辺理事)

期 日 2021年8月11日(水)・12日(木)・13日(金)・14日(土)
 会 場 神戸市/神戸文化ホール・神戸市立中央体育館
 主 催 (公社)日本女子体育連盟、神戸市、神戸市教育委員会
 主 管 第33回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)実行委員会
 後 援 スポーツ庁、(公財)日本スポーツ協会、NHK(日本放送協会)、

	(公財)全国高等学校体育連盟、全国高等学校長協会、兵庫県、兵庫県教育委員会、 (公財)神戸市スポーツ協会、(公財)ミズノスポーツ振興財団、 (株)日本旅行神戸支店、ミズノ株式会社、(株)フォトスタジオ八木
協 賛	
内 容	①開会式(限定オンライン配信) ②創作コンクール部門 (高校/予選(2日間開催)・決選、大学/予選・決選) *予選、決選 無観客オンライン同時配信 ③参加発表部門 *無観客オンライン同時配信 ④表彰式・特別プログラム(創作コンクール部門高校・大学受賞作品) *特別プログラムは大ホールにて有観客1回公演 有料 全席指定
表 彰	文部科学大臣賞、NHK賞、日本女子体育連盟会長賞、神戸市長賞(以上、高大各1)、 特別賞(高大各4)、奨励賞(高大各1)、審査員賞(高3、大1)、準入賞(高4)
参加校数	①創作コンクール部門 高校/77 ・大学/23 計100校 ②参加発表部門 高校/27 ・大学/12 計 39校
参加人数	①創作コンクール部門 高校/1,721 ・大学/362 計2,083名 ②参加発表部門 高校/538 ・大学/168 計 706名

参加都道府県数 21

TV放映 NHK Eテレ 9月18日(土)16:00~17:00 【再放送】10月2日(土)24:30~25:30

その他

- ・第20回大会記念DVD(20年間のテレビ放映映像を含む総集編)や過去大会の記録DVDを提供
- ・第33回大会の記録DVD(Blu-ray)と『女子体育』報告特集号の申し込み
- ・大会の詳細を『女子体育』報告特集号に報告

<概 要>

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じ、例年とは大きく異なる方法で大会を開催した。顧問会議は事前にオンラインで行い(8/2)、大会第1日目は、「上演打合せ」「創作コンクール部門予選(無観客オンライン同時配信)」を予定通りに実施した。第2日目「創作コンクール部門予選(無観客オンライン同時配信)」「開会式(限定オンライン配信)」「決選上演打ち合わせ」、第3日目「創作コンクール部門決選(無観客オンライン同時配信)」、第4日目「参加発表部門上演(無観客オンライン同時配信)」「特別プログラム 受賞作品上演」も、予定通りに実施された。参加者数は延べ2,789人、参加校数は139校、オンライン配信の視聴者は、延べ4,647名であった。大会役員・委員(総務・上演・アナウンス・審査・式典・受付・会場・楽屋)84名の他、舞台スタッフ(舞台監督・照明・音響・アナウンス)、各業者(JTB・写真・印刷・HP)等、多くの人々の力が結集し、コロナウイルスの感染拡大が続く中での大会開催となったが、クラスターを発生させることなく、無事に大会を終えることが出来た。

第33回大会の大きな変更点として、感染症予防対策を大会会場各所に講じた。その例として、小道具の廃止。上演の際、作品間の時間に余裕を持たせる。出演者の楽屋としての場所を増やすため、大会ホール付近の施設を貸切にし、体育館の更衣スペースにはパーテーションを設置。会場内の動線はなるべく一方通行にし、他の参加校となるべく接触しないような工夫を行った。感染状況が厳しい状態が続いていたため、特別プログラムを除く、すべての上演は無観客オンライン同時配信を行った。オンライン配信に伴い、音楽著作権等の取り扱いと申請方法についても、例年と大きく申請方法を変えて行った。また当日役員として、出演校の教員などに任意で役員を募集し、当日の運営をお願いするという試みも行った。

大会開催後には、財政基盤をより強固にするため、ガバメントクラウドファンディング(ふるさと納税)を実施。次年度も新型コロナウイルス感染症感染拡大の不安があるため、基本的には今年度のやり方を踏襲し、状況に応じてやり方を変更していく予定である。

2)国際的な研究交流事業

□国際交流専門委員会(田中葵理事)

① 国外の体育・スポーツ・ダンス推進団体との連携、情報交流

○国際女子体育連盟(IAPESGW)との連携

○JAPEW HP「国際情報」ページに、IAPESGW ニュースレターを配信している。またCID(International Dance Council 国際ダンス協議会)、IWG(International Working Group on Women and Sports 女性とスポーツの国際ワーキンググループ)を中心とした、海外における国際的な女性と体育・スポーツ・ダンス関連の情報を配信した。

② 国際学会参加促進に向けた第2回研修会の開催

期 日 2021年8月21日(土)14:00-16:50

会 場 オンライン(Zoom) 委員会場：お茶の水女子大学 / びわこ成蹊スポーツ大学

主 催 (公社)日本女子体育連盟

講 師 西条正樹(びわこ成蹊スポーツ大学)、原田純子(関西大学)

内 容 国際学会発表について理解を深め、英語でのアブストラクト作成方法を学ぶ

概 要 IAPESGW(国際女子体育連盟)国際会議を始めとした国際学会での発表に向け、会員の関心を高めるとともに、近年様々な場面で求められる英語でのプレゼンテーションやアブストラクト作成について基本的なスキルを習得する機会として、昨年度より開催している研修会である。今年度は国際女子体育連盟国際学会に参加経験のある原田理事と、びわこ成蹊スポーツ大学より西条正樹氏を講師として招聘した。今年度もコロナウイルス感染予防対策からオンラインのみでの開催とし、当日の参加者は20名(会員4名、学生15名、一般1名)であった。内容としては、原田理事によるIAPESGW国際会議での発表経験談、西条講師による英語での考え方とアブストラクトの構成についてのレクチャーとグループワークを行った。原田理事の体験談があったことで連盟の活動として国際大会の様子を知る機会になった。また、西条講師のレクチャーでは英語の技術的な点だけではなく、国際学会発表の際の考え方や教育の違いなどに触れられたことで国際理解が深まった。事後アンケートでは今後も継続して欲しいという声もあり、次年度も本研修会を発展させる予定である。

③ (公社)日本女子体育連盟の活動情報の国外への発信

○ホームページのイングリッシュガイドの情報を更新した。

○連盟の活動をIAPESGW News Letterへ投稿した。

④ 日本国内にある異文化グループや国際交流グループとの連携事業についての検討

○学校や地域において、体育・スポーツ・ダンスを通じた異文化交流が推進できる方法を提案できるよう、情報収集を行った。

5. 研究の奨励及び研究業績の表彰

1) JAPEW 賞顕彰

□JAPEW 賞選考委員会(飯田副会長)

JAPEW 賞は社団法人(当時)日本女子体育連盟創立50周年を記念して、平成16年度に「指導者賞」と「研究奨励賞」の2賞が制定されたが、24年度に新たに「功労賞」が制定され、3賞となった。さらに連盟創立60周年を期に新たに平成26年度に「松本千代栄賞」が制定された。本年度は功労賞および指導者賞について候補者の推薦があり、2021(令和3)年8月30日までに書面にて各賞の選考委員会を開催し、慎重に審議した結果、以下の通り決定した。受賞者へは、事前に表彰状と副賞を授与し(郵送)、第54回全国女子体育研究大会/サマーセミナー2021開会式(2021年10月2日)において受賞者の写真とコメントを掲載した表彰式映像をオンラインで配信し顕彰をおこなった。なお、受賞者氏名は機関誌『女子体育』誌上およびHP上で公表した。

① 第8回松本千代栄賞 該当者なし

選考委員会(委員長)八木ありさ

(委 員)阿江通良、片岡康子、村田芳子、高橋和子、高野牧子、細川江利子

② 第10回 JAPEW功労賞

受賞者 茅野理子氏(栃木県)

選考委員会(委員長)八木ありさ

(委 員)片岡康子、高橋眞琴、村田芳子、高橋和子、高野牧子、小松恵理子

③ 第18回 JAPEW指導者賞

受賞者 梅木美恵子氏(東京都)、古関美保子氏(東京都)、和光理奈氏(愛知県)

選考委員会(委員長)八木ありさ

(委員)山西哲郎、林真幾子、笹本重子、飯田路佳、佐藤廣子、村島恵美子

④ 第18回 JAPEW研究奨励賞 該当者なし

選考委員会(委員長)八木ありさ

(委員)阿江通良、高橋和子、寺山由美、宮本乙女、高野美和子、原田純子

6. 広報・普及活動

□広報・普及委員会(飯田副会長・田中安理理事)

1)各加盟団体とのIT化の推進

- ・事務手続き効率化のため、各加盟団体間でIT化を一層推進した。
- ・岡山県女子体育連盟ホームページリンクの共有を行なった。

2)『女子体育』購読促進活動・会員増員のための活動

新型コロナウイルス感染症の影響により、大会が見送りとなった為、活動することができなかった。

3)ホームページの内容充実及び開示情報の更新

- ・各事業と関連し、情報発信の敏速性とHPの充実をはかった。
- ・事業報告、事業計画、財務諸表(決算書・予算書等)の情報を公開した。
- ・JAPEW推奨 ダンス授業・部活動練習ガイドラインの情報を公開した。
- ・全国大会に関連した映像を公開した。

4)『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』の電子化

『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』第37巻を電子ジャーナルとしてJ-STAGEに公開した。

5)JAPEW関連事業に関する動画の制作

全国大会で使用する映像(JAPEW賞受賞者及び2日間の振り返り)の制作と公開を行なった。

6)JAPEWに関連する公式SNSの管理

JAPEWの活動内容の情報ツールとしてSNS(Facebook、Twitter等)に関する管理を行なった。